

市長賞(最優秀賞)

未来のこうふ

甲府市立南中学校 三学年 清水 啓音

今、日本は超高齢化社会に突入しています。甲府市では、高齢者と呼ばれる六十歳以上の人の割合は四人に一人です。十年後にはますます高齢者が多くなると予想されています。だからこそ住みよいまちというのは高齢者にとっても暮らしやすく、地域の関わりが充実しているまちだと私は考えます。

高齢者の多くは、定年を迎え、仕事をしていた人が大半です。だから地域の活動をしていくことが多いと思います。地域の活動をしたいという人はつまり、地域の人々との関わりがたくさんある、ということだと思います。そうなるとう高齢者の方は、日常の関わりが増え、災害時の助け合いや地域行事の活性化につながります。

例えば、小学生の登下校の安全を見守る高齢者の方を多く見かけ、子供たちは安心して学校に通うことができます。また、私たちが

地域行事に参加すると自然と地域の人との関わりが増えてきます。それにより、同じ地域に住む人同士のつながりをつくることができ、まず、私たちのような中学生でも行事などを通してこのように交流する機会も増えます。これは私たちが住みよいまちにもつながってくるのではないのでしょうか。

甲府市のスローガンは「人がつどい」が、かよう笑顔あふれるまち・二うふれです。人がつどいということは、地域の人との関わり

が増えるということ、心がかようということ、地域のお祭りなどの行事を通して一丸となることだと私は考えます。そのためにやはり回覧板の受け渡しや近所の人に会った時のあいさつなど、日常の小さなことでも地域の人との関わりは必要不可欠だと思えます。十年後は私たちが働く世代となります。私たちが率先して地域の関わりを充実させていかなくてはなりません。甲府市を誰もが住みよいまちにしていきます。

未来のこうふ

南西中学校一年 大森 千嘉

私は十年後のこうふが、どうすれば、今よ

りも、と住んでみたい、住んでよか、たと

思ってももらえるのか考えてみました。

そこで私はまず住んでみたい街ランキング

で九年間一位の街、吉祥寺について調べてみ

ました。アンケートで吉祥寺と答えた人の理

由は、都会と自然のバランスがいい、や、緑

が多く、ひと休みできる公園がある、などの

緑が多いことについて、交通の便がいい、

都心へすぐ行ける、など交通の環境がいい

ことが理由に挙げられています。

とある実験で、道に緑のプラントが並ん

でいるかいないかで、その街に住みたいかど

うかがが変わるという結果が出ました。

一つの事をするだけで街の印象を大きく変え

ることができるのです。

次に交通についてです。甲府駅から東京駅

へは電車で一時間四十五分もかか
 るとても「すぐ行ける」時間ではあり
 ませんが、ただ都心へすぐ行けるから
 吉祥寺が一位な訳ではありません。吉
 祥寺は駅周辺で全ての買い物が済ん
 でしまうというのも魅力の一つのよ
 うです。このような駅の半径四百メ
 ートル内に店が点在している街をコ
 ンパクトというそうです。私は甲府も
 13年後完成予定のリアモーターカー
 の駅、新駅周辺がコンパクトシティ
 になればいいと考えます。東京へも
 二十五分で行くことができません。私
 は十年後のこうふを今よりもっとい
 い街にするために次の二つのことを
 したらよいと思います。まず緑を増
 やす活動。商店街やお店が市と協
 力し、街に緑を少しづつでも増や
 していくことです。次にリアモーター
 カ完成までに新駅周辺の設備を整
 え、見事なコンパクトシティにする
 ことです。以上の2つのことをす
 ればこうふの街は今よりもっと住
 みやすくなると思います。

未来のこうふ

南西中

二年

清水

克樹

今の甲府を自分なりに考えてみた。最初に思っ たことは子どもが少なくなっているとい うことだ。実際に僕の学年は三クラスしかない。僕が入っている野球部は十一人でぎりぎ りで試合をやっている。これが現在の状況だ。次に思い浮かんだのは公園のこと。甲府の公園は周辺の市町村に比べて魅力的ではなく使 いづらいと思う。

親に聞いてみた。すると甲府は非常に子育てをしにくいとの意見だった。例えば、子どもとのびのび遊べる場所が少ない、子育て支援が充実していない、子どもに優しくない町 だと言っていた。だから皆甲府で子育てをしないのだと母が言っていた。

そこで僕はどうしたらこの甲府が魅力的な町になるか考えてみた。

ひとつめに、子どもを一番に考えた町づく りが大切だと思う。例えば公園を整備し、子

どもたちが安全に楽しく遊べるようにすること、また子育てがしやすいように多くのお父さんやお母さんの意見を聞き、その意見を反映する窓口を作ること。このようなことが考えられる。

ふたつめに、地域のつながりを取り戻すことも大切だと思う。僕の地域では、自治会の活動に参加する人が年々減少し、大半がお年寄りになっていいる。だからもつと若い子どもたちも積極的に参加できるような取り組みが必要になってくると思う。

このような取り組みを実行していけば、徐々に子どもが増え、そして笑顔がたえまなくはじける甲府になると思う。少子化を解決できると系口になるかもしれない。

十年後は僕も父親になっていいるかもしれない。その時は、僕たちができることは積極的に協力していきたいと思う。そして子ども達に誇れるような甲府市になっていいる、きっと

減って行ってほしいです。

ニつ目はシャツタ一通りがある所です。シャツタ一通りのようにさびれてしまっている所か、また何かのお店になっ、ていて、十年後にはにぎやかな商店街になっ、ていてほしいです。

三つ目は子供が安心して楽しめる公園が少ない所です。私の家の近くには、たくさん公園がありますか、どこも見通しか悪く、不審者の情報も聞いたことがあります。だから、見通しが良く、子供が安心して元気いっばいに遊べる公園ができていたらいいなと思います。

す。

十年後には、リニアモーターカーが開通していて、ちかう県からあ、という間に山梨県に遊びに来れるようになってい、ると思うので、たくさんの人がこのこうふの街に来て、素敵な街並みときれいな自然を感じ、良い街だなあと思っ、てくれ、ていたらうれい、いです。

佳作

未来のこうふ

南西中

二年二組

小澤

未値

あと三年でリニアが開通する二〇二四年、甲府は、希望であふれている。日本の真中、山梨県。そして、その中心の甲府市は、今や住んでみたい街。ナシバードンにあげられる。自然と人が共存する。自然と文化が融合する街。空気も水も澄んでくる。だから、そこに住む人の心も澄んでくる。太陽光発電によって、全世界の電力はまかなわれている。景観を損ねないように、モノレールが街と街をつなぐ、リニアの発着駅には、専用道路が設けられ、どこからも最短でアクセスができる。流れる川は、きれいに澄み、魚たちが水しぶきをあげて泳ぐ。十年前は、あんなに汚なかった川が生まれかわっている。そして、私たちが十年前に提案した、公園の整備も大きく進歩している。どこも同じ様な変てつのない公園だ。だが、南西第一公園は、水遊びが出来ろ公園。第二公園は、楽しい遊具が揃っている。

る。第三公園は、交流の場。

それは、エリアの特色を生かしながら、人が息づく原点。

文化も、科学も最高の域に達しながらも、人と人の心が接するあたたかさか街を包む。子供も大人も、お年寄も、障害を持っていらっしゃる人も、生きていくことが楽しい。いつ何が起きても対応できる防災のしくみが整備されている。

そして、今も変わらぬ、季節ごとにおいしい果物が実る。春はいちご、さくらんぼ、夏は、桃、秋はふじう、冬は柿。

私の大好きな街。

フエ。 JAPAN 甲府!!

佳作

未来のこうふ

甲府市立南中学校

2年

村上

夏美

私は、住んでみたい、住んでよかったです。と思

え。未来のこうふについて次のように考

え。まず、甲府市に住んでいるみんなが、豊か

で気持ちよく暮らせる町をつくることか大切

だと思ふ。私達子供は、建物を建てたり、お

店の商品を売ったり作ったりはることはでき

ない。だから、そのようになことを大人、私達

の親が一生懸命やっています。それは、これか

らの甲府には大切だと思ふ。では、私達には

何ができるだろうと考えたとき、大まなこ

はでまなないが、町のゴミを拾う、近所の行事

に積極的に参加する、おいさをたくさんす

るといった、小さなことから始めたいこと

が良いと思う。ゴミを拾えば町がきれいにな

り、近所の行事に参加することです。みんな楽し

くなら、おいさをすることでお互いが気持ち

ち良くなる。ほんの小さなことですが、笑顔を増

No.

No.

やし、豊かで気持ちよく暮らせる第一歩にな
ると思う。

次に、安心・安全に暮らせる町をうくるこ
とも大切だと思う。最近では、とても物騒な

事件が、多く不安だ。甲府市でも、このよう
なことがあつては、甲府に住んでよか
たとは

決して言えない。しかし、近所の人と交流を
深めたり、お互いを意識すること、ま
あり

の小さな変化に気付ける仕組みが安心
●安全に暮らせ、笑顔が増えるのが、
はなやか

と思う。

このように住んでみたい、住んでよか
たと思える町は、モと笑顔が多
いのではな

いかと思う。未来のこうふは、科学的な
進化も大切だが、身近なところから、ま
あり

の人と協力したり意識し、一人一人が進
化し、

少しずつ笑顔を増やし、甲府市全体を笑顔
にしていくことが一番大切だと思う。

未来のこうふ

甲府南 三年

青山 奈津希

私が住んでいる甲府市は、宝石加工がさか
 んで、農業・林業では自然を生かした産業が
 発展し続けています。また、温泉や観光地な
 ども充実しています。

産業では、宝石加工や盆地特有の気候を活
 かしたぶどうやとうもろこしなどの生産がさ
 かんでいます。

温泉地は、良質の高温泉がわき出ているこ
 とで有名です。

観光地は、山梨百名山に選ばれている山が
 あり、自然を肌で感じられるところがたくさ
 んあります。

甲府市は、土地や環境を活かした良いとこ
 ろがたくさんあります。今よりも、もっと
 住んでみたい、住んでよかったと思えるよう
 にならためには、どのような町になれば良い
 か考えてみました。

一つ目は、交通整備をすることだと思いま

す。夕方頃、いたるところで渋滞が発生します。渋滞を解消するためには、右折ラインや矢印信号をしりかりつくることで直進車がスムーズに行ききできるようにすることだと思えます。また、歩道をゆっくり歩行者の安全を守ることも大切だと思えます。

二つ目は、日照時間が全国でもトップクラスの甲府市だからこそ自然エネルギーの活用です。太陽を利用した太陽光パネルを現在よりも多くの家庭で設置できるようにすると良いと思えます。太陽光パネルとは、災害、停電時の非常用電源として使うことができ地球にやさしいものです。

三つ目は、若い人が働ける場所をつくることだと思えます。過疎化が進む甲府市では、もっと若い人が働きやすい環境を整えることが大切だと思えます。

十年後の甲府市も自然が豊かで産業がおとろえていかなければなりません。現在よりも住みやすい甲府市に変わってほしいです。

「未来のこうふ」

甲府市立南西中学校 三年 石川夏鈴

私が十年後に住んでみたい、住んでよかったです。と思える甲府は、商店街が活気であふれていて、自然もあり都会的要素のある町です。十年後というときは私は二十五歳です。多分、甲府が今のままあまり魅々のない町だったら正直住みたいとは思いません。

電車、バス、お店、高校などを足りないと思えるものかたくさんあって、特にバスと電車は少なすぎると思います。何十分、何時間に一本のバスがあるので母も市外の高校へ通っています。たときは、部活などで電車に乗れず夕ワミで帰ったこともあったそうです。電車やバスが少ないというのは、学生にとっても大変だと思っています。次にお店が少ないと思えます。東京や京都など他県の駅はお店がいっぱいあり、とても楽しかったです。しかし甲府駅は乗めるところがなく、人も少なくて暗い

栗田気があります。駅は中高生、社会人の女性向けの店舗を入れれば、仕事の帰りに立ち寄り、飲みようと思ったり、休日に友達や恋人と一緒に出かけようと思えば可能です。

だからといって自然がない町になれば、と思っ
ていろいろわけではなく、自然も十分にあり
るほうがいいと思います。今、甲府の町の空
気や水が綺麗なのは自然が豊かなおかげです。
だから自然は残ってほしいです。

電車やバスの通る数、甲府駅や駅周辺の中心

高生、社会人を中心としたみんなが楽しめる
ようなお店の店舗数などが多く自然も多くあ
るような、ホステ子どもから老人の方まで、
れもが楽しめる甲府の町に住みたいです。

そしてこんな町が実現すれば、他県からも
多くの人が来て、明るくおやかな町になる
だろうし、甲府に住んでいる人たちも甲府に
住んでいてよかったですね。なるのではないかと
思いました。